

令和4年度 授業評価アンケートに関する
自己評価報告書

令和4(2022)年9月
別府大学短期大学部

◆授業評価アンケートの活用

視点① 学生による授業評価アンケートの実施

視点② IR 業務を担当する者による分析

視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

I. 事実の説明及び自己評価

視点① 学生による授業評価アンケートの実施

1 実施期間等

前期：令和3年7月5日（月）～令和3年7月24日（土）

後期：令和4年1月4日（火）～令和4年1月24日（月）

（参照：報告書 P3 実施要領2. 実施時期に掲載）

2 対象者

全学生（食物栄養科 89 名、初等教育科 416 名） 計 505 名

授業科目数 341 科目（前期 165 科目、後期 176 科目）

履修者数 13,213 名（前期 5,847 名、後期 7,366 名）

（参照：学生数は、別紙資料1 授業科目数は、報告書 P13・14

履修者数は、資料省略） 非常勤科目講師担当科目等は対象から除外

3 回収状況

回収数 7,355 名（前期 4,364 名、後期 2,991 名）

回収率 55.7%（前期 74.6%、後期 40.6%）

（参照：報告書 P13・14）

視点② IR 業務を担当する者による分析

分析については、まず、各教員が行い、改善プランを学科長に提出し、学科長による見解（報告書 P17, P27）を取りまとめ、統括する FD 委員会で最終の取りまとめを行っている。また、授業改善に関する FD 活動も実施している。IRer は、独自にデータ分析を主に行い、企画運営会議等で気づいた点や改善案を提案している。今回は、主に次のような気づきを報告した。改善等は今後提案を行う予定である。

1 分析結果

- ・回収率が 55.6%と年々低下減少が見受けられる。
- ・授業外学習時間が、コロナ禍のためと思われるが、1 科目あたりの平均学習時間前期 59.4 分から 38.4 分、後期 47.5 分から 36.6 分へ減少していることが見受けられる。（参照：報告書 P15・16、P25・26）

視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

1 教員への分析結果のフィードバック状況

教員への分析結果のフィードバックについては、回答期間終了から1カ月後、教員別に（科目別の集計・自由記述）結果を封筒に入れて返却している。

（参照：報告書 P4 実施要領7. 調査結果の活用に掲載）

2 教員からの改善状況報告

- ・改善点、評価結果の受け止め、自由記述の受け止め、結果の要因、授業改善プランをスプレッドシートに各教員が入力し、FD委員会に提出し、その後、学科長に提出され、FD委員会で「授業評価報告書」に取りまとめられ、企画運営会議、教授会で報告される。（参照：報告書 P4、P9～11）
- ・授業改善に関する評価の高かった教員によるFD研修会を実施している。

3 学生へのフィードバック状況

- ・「授業評価報告書」をホームページに掲載し、公表している。
- ・「授業評価報告書」を学生とのFD研修会に提出し、意見を求める等している。また、その意見や対応についても、後日取りまとめて、学生へ周知し、教授会等へも報告している。

II. 改善・向上方策（将来計画）

- ・回答率が、現在55.6%のため、90%以上の回収を目標に具体的な改善策を検討する必要がある。
- ・最近では、コロナ感染に関する質問も取り入れているが、質問内容のマンネリ化も見受けられるため、設問の見直しも必要と考えている。ただし、質問数を増やすことは好ましくないと考えており、また、変えてはいけない項目もあるなど、苦慮しているところである。

III. 関連資料

- (1) 授業評価アンケート実施要領（参照：報告書 P3～P7）
- (2) 授業評価アンケートを実施する機関の規則等
FD委員会規則 別紙資料2

（文責 別府大学・短期大学部 IRセンター 主任 IRer 山田竜大）

令和4年度 授業評価アンケートに関する
相互評価による指導・助言の為の
相互評価報告書

令和4(2022)年9月

自己評価大学：別府大学短期大学部

相互評価大学：長崎短期大学

【相互評価報告】

1. 総評

学期末にすべての開講科目に対しアンケートが実施されている。質問項目を3つに分類し、その内容等について精査している。分析結果は教員ごとに返却され、教員は、今回の改善点、評価結果の受け止め、自由記述の受け止め、結果の要因、授業改善プランの5項目からなる「私の授業改善プラン」を作成し、学科長に提出している。学科長は改善プランの取りまとめを行い、最終的にはFD委員会が取りまとめを行うという、組織的な流れができています。学生へのフィードバックは授業評価報告書のホームページ公開で行うと同時に、学生が参加するFD研修会で報告を行い、学生の意見を得ています。その意見に対してもフィードバックを行っている。

2. 視点ごとの評価

視点① 学生による授業評価アンケートの実施

学期末にすべての開講科目に対し Web 上でアンケートを実施し、60%前後の回答を得ています。クラス担任が回答を促しているが90%以上を目指すのであれば、更なる工夫が必要と思われる。

視点② IR 業務を担当する者による分析

回収率と授業外学習時間の考察が行われている。視点①と関連するが、未回答者の分析を行う必要が感じられる。未回答者に特定の傾向があるのか、成績や出席率との関連、すべての科目が未回答なのか等。

視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

分析結果を受け取った教員は、「私の授業改善プラン」を作成し、学科長に提出。学科長は提出された改善プランの取りまとめを行い、最終的にはFD委員会が取りまとめを行う。学生へのフィードバックは授業評価報告書のホームページ公開で行うと同時に、学生が参加するFD研修会で報告を行い、学生の意見を得ています。その意見に対してもフィードバックを行っており、学生が回答するアンケートが授業改善に寄与していることを、学生自身が自覚する仕組みができています。

上記のとおり、評価しましたので、報告します。

令和4年9月20日

評価者：長崎短期大学 大学改革IR委員長 中尾健一郎